

看護大通信

〈 95 〉

今号では、「察する」輩がいました。

ということについて考え 患者さんから「きょう

てみたいと思います。察は、孫が見舞いに来るん

するには「他人の気持ちだ」と聞くと、その先輩

をおしはか

って同情し

たり、思いやったりする

こと」と、つまりは心情を

読むといった意味があり

ます。

看護師として病院に勤

務していた時、この察す

ることが大変得意な（得

意という表現がふさわし

いのか悩みますが…）先

てほしいな、でも点滴を 行為が、善意として届か

していればお孫さんを抱 ないこともあるようで

きあげることができない す。相手から「余計なお

かもしれない」といった 世話」といった思わぬ返

思いが隠されていました しがあることで、双方の

思いがすれ違ってしまう ままにするのではなく、

患者さんの気持ちを察 ことは大変悲しいことで

して、先取りのケアを展 ず。

谷崎潤一郎は、文章読 たか「何かお手伝いす

本（1975年、中央文 ることがありますか」と、

岡村 典子 やんわりと言語化するの

「察する」ということ はどうでしょう。

開するという先輩の姿を 連)のなかで、日本語の

みて、私も早く先輩のよ 語彙が乏しいこと、そし

うになりたいと日々精進 て、それを補うものとし

していたことを思い出し て読者の想像力(察する

ます。 力)をとりあげています。 んわりと届くように思

ただ、最近はこの察す ただ、西洋の文章が入っ のですが…

ことによってとられた てきたことで日本の文章

第1日曜掲載